

相模原アスコン株式会社

製品安全データシート

作成日：2017年07月01日

改定日：2017年07月01日

1 化学物質等及び会社情報

製品名	加熱アスファルト混合物
会社名	相模原アスコン株式会社
住所	合材工場 〒252-0326 神奈川県相模原市南区新戸982-1 乳剤工場 〒252-0326 神奈川県相模原市南区新戸496-2
担当部門	本社・工場
電話番号	046-252-0217
FAX番号	046-255-2775
緊急連絡先	046-252-0217
用途	道路舗装材料
整理番号	SSAS-0001

2 危険有害性の要約

特有の危険有害性

通常は道路舗装材として使用する。製品は混合直後から一般供用(工事施工後)するまでの間、高温溶融状態(半固体)なので、皮膚に接触するとやけどするので注意する。

【GHS分類】

	経口	区分外
	経皮	区分外
急性毒性	吸入(ガス)	区分外
	吸入(蒸気)	区分外
	吸入(粉塵・ミスト)	区分外
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性	区分外
感作性	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
	標的臓器毒性(単回暴露)	区分外 (呼吸器、神経系、腎臓、肝臓)
		区分外 (肺)
		区分外 (麻酔作用、気道刺激性)
	標的臓器毒性(反復暴露)	区分外 (呼吸器、神経系、肺)
		区分外 (精巣、肝臓)
	吸引性呼吸器有害性	分類対象外
	水性環境毒性(急性)	区分外
	水性環境毒性(慢性)	区分外

【GHSラベル要素】

絵表示	なし
注意喚起語	なし

危険有害性情報	なし
※注意事項	通常は道路舗装材として使用する。製品は混合直後から一般供用(工事施工後)するまでの間、高温溶融状態(半固体)なので、皮膚に接触するとやけどするので注意する。 加熱時に発生するミスト・煙・蒸気・ヒュームの吸入は避ける。

3 組成、成分情報

単一製品混合物の区分	混合物
化学名または一般名	アスファルト混合物
別名	石油アスファルト混合物

化学名	含有量(wt%)	官報公示整理番号	CAS. NO
アスファルト	4.0~7.0	9-1720 (化審法) 12-189 (安衛法)	8052-42-4
砕石・砂・その他	85~97	—	—

4 応急措置

目に入った場合	直ちに清浄な水で、15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。 出来るだけ速く医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	付着物を布等ですばやく拭き取る。 大量の水及び石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。 外観に変化が見られたり、痛みがある場合は、医師の診断を受ける。
吸入した場合	蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。安静にして直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。 嘔吐物は飲み込ませないようにする。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5 火災時の措置

消化方法	噴射水、粉末、炭酸ガス等消火器を火元に放射、散布するなどして消化する。 泡消化剤等を用いて空気を遮断する方法も有効である。 風上から行う。
消化剤	粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂
使っていない消化剤	棒状注水は、水蒸気爆発を起こす恐れがあるので避ける。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際には保護具を着用する。
保護具及び緊急措置	屋内での使用時は、換気を良くする。 作業の際には手袋、必要に応じて、保護マスク、ゴーグル等を着用し ガス等を吸入しないよう注意する。
環境に対する注意事項	排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏れをとめる。 漏出物を取り扱うときに用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止	全ての発火源を速やかに取り除く。 漏出時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	室内で使用する場合は、換気を十分にする。 直接火の中に入れていないこと。 直接水の中に入れていないこと。 長袖作業着・保護手袋を着用すること。 必要に応じて、呼吸用保護具や保護眼鏡を着用こと。 取り扱い後は、良く手を洗うこと。
保管	保管ができる製品ではないで、余った製品は廃掃法に基づき処分する。 余った製品は、水まわりや湿気の多い場所に置かないこと。 余った製品は、子供の手の届くところには置かないこと。

8 暴露防止及び保護措置

製品としての有用な情報なし

単一製品として	許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)		
	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
化学名			
鉱油	未設定	3mg/m ³ (鉱油ミストとして)	TLV-TWA 5mg/m ³ (鉱油ミストとして)
碎石・砂・その他	未設定	未設定	未設定

設備対策	屋内作業で大量に使用するときは、蒸気が滞留しないように、排気装置を設置する。
保護具	状況に応じて呼吸用保護具
保護眼鏡	状況に応じて保護眼鏡
保護手袋	保護手袋
保護衣	長袖作業着

9 物理的及び化学的性質

外観	常温時は黒色固体	加熱時は黒色半固体
臭い	データなし	
pH	データなし	
融点、凝固点	50～180℃	
沸点、初留点と沸点範囲	データなし	
引火点	データなし	
爆発範囲	データなし	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度(空気=1)	データなし	
比重	2.20±0.1/m ³ (締固め後)	

溶解度	データなし
N-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

10 安定性及び反応性

安定性	製品に対する有用な情報なし。
反応性	製品に対する有用な情報なし。
避けるべき条件	有機溶剤との接触。 強酸化剤との接触。 水との接触。
混触危険物質	製品に対する有用な情報なし。
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成する。

11 有害性情報

急性毒性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	経口 ラット LD50 5000mg/kg以上
(鉱油として)	経皮 ラット LD50 2000mg/kg以上
(鉱油として)	吸入(ミスト) 製品に対する有用な情報なし。
皮膚腐食／刺激性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	ドレイズテストの結果は刺激性なし。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	ドレイズテストの結果、軽度の刺激性あり。
呼吸器感作性又は皮膚感時作性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	減圧残留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。
生殖細胞変異原性	製品に対する有用な情報なし。
発がん性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	IARC(国際がん研究機関)は『Bitumens』について「IARCグループ2B(ヒトに対して発がん性について分類できない物質)」に分類している。 各種の報告から判断してアスファルトヒュームは、動物に対する長期的吸入による発ガン作用は持たないと考えられる。
生殖性	製品に対する有用な情報なし。
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	製品に対する有用な情報なし。
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6～7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管湿潤、気管支炎、肺炎、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。
吸引性呼吸器有害性	製品に対する有用な情報なし。
(鉱油として)	GHSの危険有害性区分の判定基準である40℃で測定した場合の動粘度率が20.5mm ² /s又はそれ以下の炭化水素に該当しない。

12 環境影響情報

生体毒性		製品に対する有用な情報なし。
残留性／分解性 (鉱油として)	残留性	製品に対する有用な情報なし。 石油アスファルトは通常の温度では蒸発しないが、道路舗装や屋根葺きの前に加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、石油アスファルトは分散性に乏しく、浮くか沈むかである。土壤中では、移動性はない。
	生分解性	石油アスファルトの水性環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根葺きに利用してきた経験から、石油アスファルトは明らかにいつまでも持続する物質であり、生分解性がないことが特長でもある。
生体蓄積性 (鉱油として)		製品に対する有用な情報なし。 石油アスファルトの構成成分のlog kowはすべて6以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水生生物の体内に取り込まれることは考えにくい。
土壤中の移動性 (鉱油として)		製品に対する有用な情報なし。 土壤中では、移動性はない。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県の許認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して廃棄処理を行う。
容器及び梱包	自治体の定めるルールに従い、分別して廃棄を行う。
その他	投棄禁止 その他、関係法令に定めるところに従う。

14 輸送上の注意

国際規制	国連番号	非該当
	品名	非該当
	国連分類	非該当
	容器等級	非該当
	海洋汚染物質	非該当
国内規制	陸上	労働安全衛生法 通知対象物 (鉱油)
	海上	船舶安全法 非危険物
	航空	航空法 非危険物
安全対策	該当法規に従い、梱包、表示、輸送する。 容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転落、落下、容器破損の無いことを確かめ積み、荷崩れ防止を確実にを行う。	

15 適応法令

消防法	非該当			
PRTR法	非該当			
労働安全衛生法	通知対象物	鉱油		第168号
船舶安全法	非該当			
航空法	非該当			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制			

16 その他の情報

参考資料	厚生労働省 職場の安全サイト GHS対応モデルMSDS GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 原材料データシート(SDS) 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2014) 米国産業衛生専門家会議(ACGIH) IARC Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans 安全データシート ストレートアスファルト(JXTG日鉱日石エネルギー(株)2017/04/01) 安全データシート ストレートアスファルト(昭和シェル石油(株)2015/02/01) その他
------	---

本データシートは当該製品の一般的な取扱いに際しての安全な取扱い方法について最新の情報を集めたものですが万全ではありません。新たな情報を入手した場合は追加又は訂正することがあります。当該製品を他の製品と混合したり、特殊な条件で使用したりするときは安全性の評価を行ってください。本データシートは保障値ではありません。